

福岡県大川市 モノ作りの魅力発信プロジェクト

- プログラム概要** : 家具づくり等のインテリア関連業務に従事したり、自ら設計した創作家具づくり体験を通したりして、大川市の最大の特徴「職人が創る家具の魅力」を写真・動画・SNS等を媒体としてPRし、活気ある大川市の未来像を考える。
- 実習先** : 株式会社プロセス井口（福岡県大川市）
- 実習先情報** : 大川市で創業。かつては材木の仕入れを主に行っていたが、現在は加工や内装業などは広く業務を展開している。取引先は国内のみならず広く海外にまで広がっている。
- 参加人数** : 4名
- 学部学科** : 工学部 建築デザイン学科、同サステナビリティ学科
- 実習期間** : 令和5年8月21日～9月2日
- 本学担当教員** : 磯部孝行（サステナビリティ学科）

○はじめに

このFSIは、福岡県大川市で家具づくりを中心に営んでいる企業に訪問し、実際の家具をつくり、かつ、大川市役所や関連する企業に訪問し「大川市」の魅力を発掘するプログラムである。

自身でデザインした家具をつくるのに必要な設計図を3D CADの汎用ソフトである（AutoDesk社のFusion360）を用い行い、家具のデザインした。デザインした図面に基づき、実習先の指導のもと、加工・組み立てを行い家具を完成させた。また家具のまち大川の魅力を発信するための提案を行った。

さらに、大川市内を回り、大川市のものづくりの魅力を発信するために「推し活」によるまちづくり活性化の方策を提案した。

○実習内容

・事前学修

担当教員とSA指導のもと、製作する家具（机、椅子など）を決め、家具のデザインをし3DCADにより家具の3Dモデルを作成するとともに図面を作成した。自身でデザイン、設計した家具の図面やモデリングをオンラインで実習先と打ち合わせ、製作可能なデザインに最終調整し、家具の図面を完成させた。

<事前学習>

家具の設計と図面の作成

<学外学修：福岡県大川市>

- 内容 -

- ・ 図面に基づいた家具製作
- ・ 大川市の市内視察

- 成果 -

家具製作、大川市の活性化手法の提案

<事後学習>

FSの成果報告書のとりまとめ



図 設計した家具の3Dモデル

・学外学修

実習先に送った設計図をもとに材料を調達してもらい、実習先の家具職人の方に家具製作を指導していただきながら、部材の準備、組み立てや仕上げを行った。実習終了後や休日には大川市内を散策し、大川の魅力に触れることが出来た。

実習最終日には大川市役所で完成した家具の展示会と大川市の活性化のアプローチとして、近年の若者の消費活動に着目して「推し活」をテーマに提案した。



写真 大川市の酢醸造場、家具の製作風景と完成した家具

・事後学習

学外学修で学んだことを討議し、成果報告としてまとめた。

○成果（提案したこと、経験したこと、学んだことなど）

製作した家具の説明のほか、大川市で感じた課題に触れ、「推し活」を中心に大川市の特長である家具・ものづくりを生かした製品アイデアなどを提案した。本FSでは自身のほしい家具を一から設計し、職人の方から指導をいただき家具づくりを行った。何気なく使っている家具ではあるが、使い方を考えサイズや収納など細かな設計が必要であること、木材といっても様々な材料があり強度や質感など異なることを体感した。更に、家具づくりは、材料調達から家具完成まで様々な人が関わり一つの製品ができていることを学んだ。



写真 最終成果の報告会 ※大川市役所にて

○まとめ

自分がデザインしたものを材料から作っていくのは初めての経験で、図面から家具ができあがっていく過程にはとてもワクワクした。本FSでの「ものづくり」や「大川市の活性化の提案」などの経験を生かして、今後の学生生活も充実した活動ができるよう研鑽していきたいと考えている。ご支援いただいたプロセス井口様の井口社長、中村様、職人のみなさま、大川市役所のみなさまに感謝いたします。

○担当教員コメント

プロジェクトとして内容も多く大変だったと思うが、クオリティの高い家具が製作できたこと、また、大川市長様を含めた聴講者がいる中で「推し活」をテーマに活性化の提案しディスカッションできたことは、参加した学生にとって貴重な経験であったと考えている。ご指導、ご支援いただいた関係者のみなさまに感謝申し上げますとともに、学生のみなさんの今後の活躍を期待しています。